

平成 30 年 5 月 20 日現在

機関番号：32663

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2017

課題番号：16K17059

研究課題名(和文) 権威主義体制における政党支配と選挙区割りの戦略・効果

研究課題名(英文) Gerrymandering under Authoritarian Party Dominance

研究代表者

鷲田 任邦 (WASHIDA, Hidekuni)

東洋大学・法学部・准教授

研究者番号：50744893

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、選挙区割りの操作(ゲリマンダリング)の戦略と帰結を理解することである。具体的には、政権党が約60年間にわたり支配したマレーシアを事例に、地理情報システム(GIS)によって区割り変化を直接把握するアプローチを用いて検討した。その結果、与党連合(率いるUMNO)が、支持票を効率的に選挙区間で配分するとともに、選択的に過大代表することで、議席の安定多数と与党連合内でのUMNOの優位を確保してきたことを明らかにした。また、与党連合が2008年の選挙で大きく後退した背景に、議席数の効率的拡大を狙った区割り操作の誤算があったこともわかった。本研究の知見は、比較研究にも寄与するものである。

研究成果の概要(英文)：This study explores the strategies and consequences of redistricting (gerrymandering). Specifically, it focuses on the key case of authoritarian party dominance in Malaysia and analyzes how the ruling party had manipulated electoral boundaries. By using an originally constructed GIS database, the study explains: how and why gerrymandering strategies under authoritarian party dominance deviate from the conventional wisdom of "crack and pack"; how delineation exercises influenced the durability and decline of the ruling party; and how strategic over/underrepresentation structured electoral and coalition politics.

研究分野：政治学

キーワード：選挙区割り ゲリマンダリング 地理情報システム 権威主義体制 マレーシア

1. 研究開始当初の背景

選挙区の境界線の引き方（区割り）は、民主的代表の根幹に関わる問題である。政治家が自らに有利なように自由に選挙区割りを行うことができれば、代議制民主主義が通常想定しているような「有権者が政治家を選ぶ」という関係から、「政治家が有権者を選ぶ」関係へと逆転が生じるためである。

こうした重要性に反して、選挙区割りの操作（いわゆるゲリマンダリング）に関する研究蓄積は不足している。既存研究は、主にアメリカを事例とする研究に限られている。しかしながら、アメリカの区割り決定過程は、州毎に異なるとともに、州内の一票の格差の平等要件やマイノリティが多数派になる選挙区の設定などの特異性もあり、政権党による区割り戦略という観点からの研究が不足している。

また、既存研究は区割りの戦略よりもその影響（たとえば政治家個人の支持票の減少等）に着目するものが多く、区割り操作戦略に着目する場合も、選挙区の形状（コンパクトさ等）や得票率と議席率の関係を検討するという間接的なアプローチが多く、地理情報システム（GIS）を用いて区割り変更を直接把握するアプローチをとる研究は、まだ途についたばかりである。

さらに、区割り戦略についても研究蓄積が不足している。一般的に小選挙区制下での二党間競争状況における区割り操作の通説は、「crack and pack」つまり、与党の支持基盤を分割して与党にとっての余剰票を減らすとともに、野党の支持票を少ない数の選挙区にまとめ上げることで、野党にとっての余剰票を増やすことであるとされてきたが、果たしてこうした戦略は実際にとられているのか、二党間競争以外の条件にどこまであてはまるのか、どのような条件下でどのような戦略的要素が重視されるのかといった点については、比較研究・実証分析が不足していた。

2. 研究の目的

そこで本研究では、政権党の区割り操作戦略についての理解を深めることを目指した。具体的には、強力な政権党が区割りに対して大きな裁量を持つ、マレーシアを事例に、政権党の区割り戦略を把握することを試みた。マレーシアの与党連合（BN、旧連盟党）は、1957年の独立以降、2018年の選挙で敗北するまでの約60年間、長期にわたる議会での優位を保ってきたが、その背景に、区割り操作があるということは指摘されてきた。あるサーベイによると（EIP）、アメリカに次いで区割り操作が最も深刻な国としてマレーシアが挙げられている。

しかし、BNが実際にどのように区割りを操作してきたかを体系的に検討する研究は

これまでなされてこなかった。既存研究は、一部の時代・地域について、区割り変更前後の選挙データや人口データ（民族構成含む）に関する記述統計を比較することに留まってきた。

本研究は、区割り変遷についての体系的分析をおして、こうした溝を埋めること、さらには、区割り戦略の比較研究に貢献することを目指した。

また、本研究では、区割りが支持基盤の構造や与党連合内関係、さらには政治体制に与える影響についても考察を行った。選挙を実施する権威主義体制が非民主制の過半数以上を占める現在、マレーシアの事例を検討することは、権威主義体制の安定性や崩壊を考察する上でも有益である。

3. 研究の方法

政権党がどのような意図で、どのように区割りを行ってきたかを把握するために、本研究は、半島部マレーシアに関する独立以降の選挙区割りに関するGISデータベースを構築した（1974年、1984年、1994年、2003年の区割りに基づく地理シェープファイルに、選挙データ、人口データ、議員データ等を統合したもの）。

その上で、下図のように区割り前の選挙区割りと区割り後の選挙区割りを重ね合わせること（オーバーレイ）により、どのような地域がどれほど区割りの影響を受けたかを分析することで、背景にある区割り戦略的意図を検討した。



（図）選挙区割りのオーバーレイの例
（半島部マレーシアの北西地域、
1974年区割り前後の下院選挙区割り）

さらに、区割り前後で与野党の得票分布や人口構成、さらに一票の格差の程度がどのように変化したかを検討することで、区割りの意図や帰結についての考察を行った。

GISデータベースを用いた計量分析に加えて、選挙区割りの裁量与党がいかに拡大していったかという歴史的な経緯についてもまとめた。

4. 研究成果

体系的分析をとおして、本研究は、マレーシアのような一党優位下においては、二党間競合状況で想定される「crack and pack」とは乖離した戦略がとられることを明らかにした。

具体的には、支持基盤を分割して支持者を周囲に「輸出」というcrackはみられるものの、packはみられないことを明らかにした。二党間競争の場合とは異なり、一党優位下で得票に余裕がある場合、野党票をまとめるよりも、野党票を余剰与党票によって薄める戦略（さらには野党支持基盤を分割してかき回す戦略）がとられると考えられる。

さらに、アメリカのような（各州内選挙区間の）一票の格差の上限や行政単位をまたがることに対する制約がある場合と異なり、一票の格差の上限等の区割り方法に対する制約や選挙管理委員会の独立性が形骸化・撤廃されてきたマレーシアでは、支持基盤を分割した上で、さらに選択的に過大代表させることが可能になる。本研究では、BN率いるUMNOが、BNの支持基盤の中でも特にUMNOの支持基盤であるマレー人が多い地域を選択的に過大代表させることで、BN内でのUMNOのプレゼンスを拡大させてきたことを明らかにした。そうした選択的過大代表により、UMNOは閣僚ポスト配分等での優位を拡大してきた。

本研究ではさらに、選挙区割りが政治体制に与えた影響についても考察した。そもそも、crackを行うことは、議席数の拡大に寄与する反面、支持基盤を脆弱化させるリスクを伴う。BNは過去の区割りをとおして繰り返しcrackを行っており、支持基盤が得票スウィングに対して（水面下で）脆弱になってきたことが、BNの衰退につながったと考えられる。特に、BNが急激に後退した2008年選挙に選挙区割りの変更が与えた影響として、1999年選挙後のマレー人の離反への脆弱性を緩和するための2003年区割りが、逆説的に「華人の津波（離反）」の影響を拡大したことを示した。

本研究の研究成果は、国内の査読付き論文1本、国内学会発表4本、海外学会発表1本、国内出版社からの書籍内での分担執筆1本、海外出版社からの単著1冊（区割り関連はそのうちの一部の章）として発表している。

具体的には、区割り戦略に関する日本比較政治学会報告(2016年)やMPSA報告(2017年)、一票の格差の影響に与える影響についての日本政治学会報告(2016年)で得たフィードバックをもとに、『日本比較政治学会年報』の論文(2017年)としてまとめ(下院選挙区)、さらに細かい州議会選挙区のデータを用いて、単著の中での区割り関連の章として成果をまとめた。

一票の格差に関する科研(26285032)に研究分担者として参加することで、区割りと一票の格差についてより包括的な観点から取り組むことができた。

区割りが政治体制に与えた帰結としては、アジア政経学会での報告(2017年)を経て、アジア経済研究所の研究双書の一章(2018年)、単著の章の一部としてまとめた。BNの衰退については、アジア経済研究所の「ポスト・マハティール期のマレーシアにおける政治経済変容研究会」の外部委員として参加する機会を得たことで、BN衰退の要因についてより多面的に検討を行うことができた。

学会発表以外にも、横浜市立大学での政治学セミナーでの講演(「地理情報システムを用いた区割り戦略の研究」、2016年8月1日)の機会にも恵まれ、区割り研究の専門家のフィードバックを得ることができた。

GISデータベースを構築し、研究インフラが拡充されたことで、選挙不正についての日本政治学会報告(2017年)、さらに同報告を基礎として2018年度から開始する新たな科研プロジェクトへとつなげることができた。

今回の2年間の科研プロジェクトでやり残した課題(直近の区割り変更や島嶼部の区割り変更等)も含め、今後も区割り研究を積極的に進めていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- ① 鷺田任邦「権威主義的政党支配下におけるゲリマンダリング：GISを用いたマレーシアの事例分析」『日本比較政治学会年報19号：競争的権威主義体制の安定性と不安定性』、57-83頁、2017年。(査読有)

[学会発表] (計5件)

- ① 鷺田任邦「権威主義的政党支配下における選挙不正の検討：マレーシアを事例に」日本政治学会(法政大学)、2017年9月23日。
- ② 鷺田任邦「マレーシアにおける与党連合の急激な後退と路線転換の背景」アジア政経学会年次大会(一橋大学)、2017年

6月25日.

- ③ WASHIDA, Hidekuni, “Gerrymandering – Malaysian Style: Survival Strategy of a Hegemonic Party.” Midwest Political Science Association Annual Meeting, Chicago. 2017年4月8日.
- ④ 鷺田任邦「一票の格差の規定要因：マレーシアを事例に」日本政治学会研究大会（立命館大学）、2016年10月2日.
- ⑤ 鷺田任邦「権威主義的政党支配下における選挙区割り戦略：マレーシアを事例に」日本比較政治学会研究大会（京都産業大学）、2016年6月26日.

〔図書〕（計2件）

- ① WASHIDA, Hidekuni. *Distributive Politics in Malaysia: Maintaining Authoritarian Party Dominance*, Routledge, Forthcoming.
- ② 鷺田任邦「覇権政党の急激な後退と対抗：区割りの誤算と新旧対立軸の相克」（中村正志・熊谷聡編『ポスト・マハテール時代のマレーシア』アジア経済研究所、分担執筆：第3章）2018年.

○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鷺田 任邦 (WASHIDA, Hidekuni)
東洋大学・法学部法律学科・准教授
研究者番号：507449893